

## 主な意見とその対応

### 第4回 草津市総合計画審議会

●は審議会での意見等

■は審議会後、事務局回答

#### (1) 第3回草津市総合計画審議会の主な意見とその対応について

主な意見	対応
●学区ごとの目標設定の「審議会で諮っていきたい」とは、今後の審議会の中で打ち出していくのか。	●本審議会で、審議を行っていく。
●「学区ごとの目標については、現時点では検討をしておりませんが」とあるが、具体的に市民がイメージしやすくするためにも、学区やある程度のゾーンでの将来像、基本目標なりが必要ではないか。可能性、議論の余地を残しておくべき。	●学区単位、コミュニティ単位等の個別の計画については、総合計画策定後に、その具体的内容について、議論していきたいと考えている。
●草津市は住宅都市がメインであるのに対し、前回資料では工業が詳しく書かれていたので、方向性として違うのではないかと問題を提起した。都市の将来の性格を位置づける問題であり、議論が必要。	■重要な論点だと思っており、今後議論していただきたいと考えている。
●「工業」という言葉を「産業」として整理するがあるが、「産業」には農業、サービス業等も含まれるため「産業」で整理すると問題がある。「工業」をどのように位置づけていくかも含め、重要な課題であり、「今後さらに検討を深めていく」としたらどうか。	■『草津市については、交通の要衝としての特性を生かした工業都市として発展してきており、これからのまちづくりにおいても、優良な産業を立地することは、重要な要素であり、市の発展には、こうした産業とのバランスが必要である。今後の草津市を考える上で、産業活動の位置づけについては、重要な点として、引き続き議論をお願いしたいと考えている。』に変更いたしました。
●「アウトカム」という表現は専門用語のため、表現を修正したほうがよい。	■『草津市がビジョンに向けて施策を展開していく上で、学区ごとの地域特性などを踏まえた施策の成果指標（目標）などについて、今後、審議会で議論をお願いしたいと考えている。』に変更いたしました。

#### (2) 草津市の現状と課題について

主な意見	対応
●「2010 ビジョン」で読みやすい、美しい表現だと感じられる箇所は、踏襲したらよいのでは。	■出来る限り検討します。
●特性、地勢の表現は、草津市を知らない人でも、	■出来る限り検討するとともに、最終の製本

主な意見	対応
読めば草津市をイメージできるものがよい。	時には写真等も活用し工夫いたします。
●総合計画は誰に向けて、どのような人が、どのような時に読むための計画かということを考え、全体の文章のトーンを考える必要がある。国の潮流、時代の潮流は、市民にはわかりにくい表現になっている。	■総合計画は「市民にわかりやすく」を基本に考えており、国の潮流、時代の潮流は整理いたします。
●「こころざしの高いまちへ」という、「こころざしって何」と思わせるキャッチコピーは魅力的である。また、1番、2番、3番の流れでみると、2番の「さらに」というのは「こころざしの高いまちへ」を目指しながら、「さらに元気で暮らしやすいまちへ」と飛び立っている。それをさらに、3段階ステップとして、自治の組織をもう少し細かく決めないといけないということを意図したととれる。	■施策の方向性を示しているとの意見もあり、今回の表現は都市ビジョンの方向性の中に含めます。
●「さらに元気で」の「元気で」は、病気であってもよいはず。「さらに暮らしやすいまちへ」でもよいのでは。	■施策の方向性を示しているとの意見もあり、今回の表現は都市ビジョンの方向性の中に含めます。
●「歩いて暮らせるまちへ」は、歩けない方、車椅子の方も車椅子で歩くという表現をするため、みんなが自分の速度でゆっくりと歩くという表現として、「歩いて暮らせるまちを」としたのはよい。	■「歩いて暮らせるまちを」のタイトルは残して行きたいと考えています。
●21ページの「新しい市民自治の仕組みへ」では「新しい市民自治への準備を」など難しい表現が多い。また、「新しい」を強調しているが、旧来の自治コミュニティが弱まっていった問題点を考え、旧来の良さを否定するのではない表現すべき。それにより、今まで自治活動を一生懸命されてきた方についてもモチベーションのアップ、ステップアップにつながっていく。	■“新しい段階”とは、身近な地域づくりを地域が主体的に行う市民自治をイメージしており、今までの自治活動をさらにステップアップするものと考えています。
●「地域特性」の表現で、「イオロ山」とあるが馴染みがない。また、「ため池が市内に点在しています」とあるが、埋め立てが進み結構宅地化されており、これを「ため池が市内に点在しています」と入れてよいのか。	■『ため池や鎮守の森、天井川として全国的に有名であった旧草津川などが、まちのなかの水と緑の空間として残され、』の表現に変更いたします。
●旧草津川の保全と活用というテーマが市のなかでも出ている。旧草津川は広い面積があり、農業用地としての活用も検討すべき。	■琵琶湖や農地、山林、旧草津川などの土地利用において、より適切な保全と活用を図っていくことが重要であると認識しており、今後検討していきます。

主な意見	対応
●15 ページの「草津市の課題」が総合計画の序章だとすると、内容が現状と課題、今後の方向性が、混在しており、タイトルと一致していない。	■施策の方向性を示しているような表現になっているので変更いたします。
●「さらに元気で暮らしやすいまちへ」では、市民生活が元気で暮らしやすいという内容に、「集積された都市機能と歴史資産の一層の活用を」というところで新しい産業の集積のことが書かれており、異質である。	■『暮らしと活力』という括りで整理いたします。
●今の産業の課題についてあまり触れておらず、不足している。	■課題において『充実した都市機能のいっその活用を』として『・・・これら都市機能の集積を最大限に生かして、企業立地の誘導を図り、異業種交流などを通じて新しい産業や雇用を生み出し、さらに活力と存在感のあるまちとなっていくことが望まれます。』として整理します。
●地域特性には、長所と短所を書くべきである。	■地域特性については、草津市の長所としてPR するように整理しており、短所については、主要な課題や今後の個別の課題で表現します。
●「こころざしの高いまちへ」「未来の担い手が輝くまちを」の表現では何を、どのようなことを課題としてあげているのかわかりにくい。	■施策の方向性を示しているような表現になっているので変更いたします。
●21 ページ「新しい市民自治の仕組みへ」の大タイトルの一番最後に「市民とともに担う地域経営への転換を」が入っているが、この課題の重要性から大項目として挙げるべき。	■「市民とともに担う地域経営への転換を」については、重要な視点であり、総合計画の推進の考え方でしっかり整理します。
●10 年前に課題とされたことに対し、どのようにアプローチし、結果がどうなったのか。引き続き、課題として扱うべきなのか。そのような整理は十分になされたのか。	●第2回、3回の審議会において、そのあたりを審議頂いき、それを踏まえて、今回の課題を整理している。
●課題、理念、ビジョンに重複がみられる。整理し、全体の組み立てを再構成する必要がある。	●課題とビジョンが入り混じっているように感じられる箇所は確かにある。意見を受け止め、組み立てを次ぎにつながる形で、再度整理する。
●市の現状、良い点、弱点から、課題を整理したうえで、都市ビジョンの方向性を導くことになる。	■草津市の主要な課題を解決する上で、10年後の都市ビジョンを描きます。

<p>●「集積された都市機能…」 「地域経営の転換」は課題である。しかし、これらと、見出しとなっている、「未来の担い手が輝くまちへ」といった表現の関係がわかりにくく、見出しを課題として捉えにくい。草津市の目指すべき方向性の検討素材として議論するなら、理解できる。</p>	<p>■施策の方向性を示しているような表現になっているので変更いたします。</p>
<p>●前回と比較し、読み物的で非常に入りやすい文章の印象を受けた。</p>	<p>■引き続き、市民にわかりやすい計画とするため、表現等を工夫していきます。</p>
<p>●「時代の潮流」で草津市が平成の大合併にどう関わったのかということについての文面となっていない。何か示唆をしたかったのかなということについてもふれることがいいのか。</p>	<p>■「時代の潮流」については、草津市総合計画懇話会の意見等を踏まえ、10年後を踏まえた、草津市として認識しておかなければならない「時代の潮流」とします。</p>
<p>●世界経済の影響は身近ではあるが、総合計画が10年という長いスパンであることを考えると、あえてサブプライムローン、昨年の後半からの日本を取り巻く経済といったことだけに断定してよいのか。もう少し緩やかな時代の潮流を見てもよい。</p>	
<p>●時代潮流は10年後はおろか、3年後に見ても少なくとも耐えられる文章でないといけませんが、多少、近々の話が入り込んでいる。この計画が2020年までであり、少なくとも2020年から2030年あたりを見据えた潮流でまとめるべき</p>	

### (3) まちづくりの理念と都市ビジョンについて

主な意見	対応
<p>●審議会は諮問答申の場で意見募集するような場ではないよう認識していたが、今は、意見募集の場となっている。</p>	<p>●審議会での議論をし、提案をいただく。諮問、答申という形である。これをさらに議会が議論していくことになる。何重にも議論をする形になっているため、まとめるまでにある段階から問い合わせさせていただくような形をあえてとっている。</p>
<p>●まちづくりの理念は、前回の総合計画ではどれにあたるのか。</p>	<p>●前回はこのような議論は行っていない。今回、新たに、まちづくりの原則についての議論をしている。</p>
<p>●前回の都市ビジョンはどこになるのか。今回の将来像がそれにあたるのか。</p>	<p>●将来像である。</p>
<p>●「将来像を展望する上での論点」では、それぞれの立場で思う分析と考えるとよいのか。そうすると、</p>	<p>■都市ビジョンは、10年後にこんなまちになっている姿を描くように考えており、主要</p>

主な意見	対応
<p>住民の居住期間が短いため、自治、住民自治会の立場から、すべてに対して住んでいるところを知るという方向が必要、自慢できるものはないという意見から、若い都市という反面、やはり住んでいる地域との愛着性が少ないという面が逆にみえる。</p>	<p>な課題を踏まえて、いろいろな意見をいただきたい。</p>
<p>●理念は完全、普遍的な基本的な考え方である。草津市のまちづくりの理念は、市民、住民、企業が望んでいることから考える必要がある。それは1つに「快適な住みよい暮らしができるまちということ」がある。</p>	<p>■草津市のまちづくりの理念については、普遍的なもので、高度に抽象的であることから、その内容を整理するためには、十分な議論が必要であり、時間を要することや市民憲章を含めて、これら理念的なものの論理的な位置づけや関係が整理できたとしても、そこに含まれる趣旨や内容が「将来ビジョン」等と重なる可能性が高いので、今回は、市民にわかりやすいという視点から、この理念を都市ビジョンに入れ込んだ表現で整理していきたい。</p>

主な意見	対応
<p>●事務局が提示した「まちづくりの基本は人です」という一語にまちづくりの理念は尽きる。そもそもまちは人間がいて初めてできることであり、自然のなかでは本来まちは存在しない。</p>	<p>■草津市のまちづくりの理念については、普遍的なもので、高度に抽象的であることから、その内容を整理するためには、十分な議論が必要であり、時間を要することなどから今回は、市民にわかりやすいという視点から、この理念を都市ビジョンに入れ込んだ表現で整理していきたい。</p>
<p>●まちづくりの理念をわざわざ挙げたのは、今までまちづくりと言いながら、なかなか人が中心ではなかったことを意識したからであり、非常に素晴らしいこと。</p>	<p>●理念は、普遍的なものをしっかり皆さんで共有しようということが大事だと考えている。われわれも今日まで「人」ということに基本を置こうということで取り組んできました。ただ、今、持続可能な社会がいわれ、その中で、一つは仕組みの問題が議論され、もう一つは仕組みではなくて、ライフスタイルとか価値観をもう一度考え直そうという議論がなされている。そのときに「人」というものだけでいいのかどうかというところが、事務局が今、検討しているところでもある。</p>
<p>●都市のイメージを具体的にイメージするのが都市ビジョン。都市ビジョンには、コミュニケーションが大事であり、尊重イコール黙認ではなく、また、すべてのものが同一になるのではないという表現を盛り込んだらどうか。</p>	
<p>●事前にまちづくりの理念を考えてくださいという知らせがあればよかった。</p>	

主な意見	対応
<p>●アンケートの結果から、草津はとても生活がしやすく、自然もたくさんあるが、ブランドがないと意見が読み取れる。6 ページで事務局は、まちづくりの基本は人で、「心」が大切、自然を生かすというまちづくりの理念を示している。これに対する委員の意見として、ここに草津らしさをどうやって盛り込むのかを求められている。</p>	<p>■草津らしさの創出については、大きな課題であり、『誰もが人とまちを大切にしながら“草津を語れる”市民文化のさらなる高まり』を課題として掲げ、今後、議論していただきたい。</p>
<p>●何のためのまちかというやはり人が中心だと思う。キャッチフレーズとして、人を育む、あるいは人を育てるまち、草津をつくりたいというのが理想。</p>	<p>■都市ビジョンで描く草津の10年後の姿を端的に表現できるキャッチフレーズにしていきたい。</p>
<p>●普遍性があるとどのまちも同じようになってしまう。その中で草津らしさのあるまちづくりの基本原則はどのようにするのかということについては、次回にまた議論したい。</p>	<p>■まちづくりの理念については都市ビジョンに入れ込んだ表現で整理するが、その都市ビジョンに草津らしさのあるまちをイメージしていきたい。</p>
<p>●草津市は、学区それぞれの特徴をもったまち。これが草津の大きな財産であり、そういうものが包括していけるような表現があればよい。</p>	<p>■意見も含め、都市ビジョンで描く草津の10年後の姿を端的に表現できるキャッチフレーズにしていきたい。</p>
<p>●草津の教育、社会教育は、トップランナーである。大学もあり、小学校のセキュリティも完璧で、非常に安全、安心である。憧れるまちという意味では教育とか文化活動のすぐれた点あたりを強調したらどうか。</p>	<p>■教育と文化については、主要課題として、「誰もが人とまちを大切にしながら“草津を語れる”市民文化のさらなる高まり」や「健やかに育ち、豊かな心と生きる力、確かな学力を身につけていけるよう」ということで整理しています。</p>
<p>●資料の構成がもう1つわからない。草津市の課題のなかに、これから草津市はどういう課題に取り組む必要があるのか、どういう方向を都市として目指したらよいか書かれている。その中から都市ビジョンが導かれる。課題の内容の議論を深めずにキャッチフレーズの議論になるともったいない。議論の進め方について見直すべき。</p>	<p>■議論の進め方については、ご意見を踏まえ、検討いたします。</p>
<p>●アンケートで「特に自慢できるものはない」が20%もあったが気にかける必要はない。そのことを頭に入れて議論することは必要だが、これほど自虐的にものを考えることはなく、立派なまちなのだから、自信をもって議論すればよい。</p>	<p>■“草津を語れる”市民文化については、のさらなる高まりの中議論の進め方については、ご意見を踏まえ、検討いたします。</p>
<p>●都市ビジョンの表現だと都市計画マスタープランをイメージしてしまう。「都市」を「まち」とひらがなでルビをふっているが、このタイトルも違和</p>	<p>■総合計画を第4次では「草津2010ビジョン」として表現もしているが、都市ビジョンの表現については、ビジョンをはっきりと</p>

主な意見	対応
感がある。端的に草津ビジョンと表現したらどうか。	描いた時点で決定します。
●都市計画図、例えば草津駅の中心地があり、また新たな都市核として草津の核があるというような地図を会議場に掲示していただくと議論しやすい。	■審議会に都市計画図を示します。
●審議会の位置づけがどのようなものか、素案がどのような時系列でどういう行程を経て最終的にできあがっていくのかを示して貰いたい。そうすれば、この場でどのような発言をするべきなのか、わかりやすい。	■審議会以外に、懇話会や市民会議、さらには特別委員会などで議論をいただいております、ご意見を踏まえて、整理いたします。
●人口の構造、都市の構造も課題がある種セットになっている。今回は、これらのところも踏まえ、審議会として課題を再整理し、明確にしたうえで、ビジョンを議論していきたい。その方法については、事務局と再調整する。	●今日の内容を整理しながら、もう少し資料の提出の仕方、こちらの考え方をあらかじめ説明してから議論を進めていきたい。

